

FANCT



旭川工業高等専門学校 学校だより“ファンクト”
平成29年3月発行

vol.127



校内体育大会にて（第5学年全学科集合）

Contents

- | | |
|--------------------------------------|---------------------------------------|
| 特集 卒業・修了おめでとう！……………2～6 | 全国高等専門学校
デザインコンペティション ……………15 |
| 退職する教職員の紹介……………7～8 | 全国高等専門学校
プログラミングコンテスト ……………16 |
| 第1学年クラス紹介……………9 | 全国パテントコンテスト・
デザインパテントコンテスト ……………16 |
| 第4学年見学旅行 ……………10～11 | 女子学生の活躍を支援する取り組み ……17 |
| 第54回高専祭 ……………12 | ANCTOPICS ……………18～19 |
| 留学生実地見学旅行と留学生交流会 ……13 | 平成29年度行事予定 ……………20 |
| アイデア対決・全国高等専門学校
ロボットコンテスト ……………14 | |

特集 卒業・修了おめでとう！

卒業生・修了生のみなさん、卒業・修了おめでとうございます。これから皆さんは、新たな道を歩んで行くこととなりますが、これまで過ごした思い出を胸に、本校で得た知識や技術を活かして、それぞれの世界で大いに活躍してくれることを願っています。



専攻科

専攻科は自由で良かったです。1年生で選択科目の単位を取り切れました。そのせいで昨年度はほかの専攻科生より数段忙しかったですが、おかげで今年度はほとんど授業がなく（前期は驚異の週休6日、後期は週休5日）、受験、研究、趣味に時間をかけることができました。

私の場合は趣味も入っていますが、電気情報の知識はどんなプロジェクトでも役に立ちます。本科でそのような知識を与えてくれた電気の先生方と、専攻科で電気以外の知識と電気の知識を応用する機会を与えてくれた機械、制御、化学の先生方に感謝します。

来年度からは一人暮らしですが、特に不安はないので普通に生活します。これまでどおりです。大学院では、学部4年分のバックグラウンドで優位に立つ内部生に高専7年分のバックグラウンドで勝負を挑みます。

生産システム工学専攻2年 加瀬 裕也



専攻科長から

専攻科修了生の皆さん、修了おめでとうございます。保護者の皆様はじめご関係の方々にも、心よりお祝いを申し上げます。

専攻科では、「特別研究」として2年間かけて各自研究に取り組み、学会発表を行ったり、論文を書いたり、色々苦労しながら単位を修得し、無事修了となったわけですが、研究は答えが分かっている問題を解く訳ではありません。座学や演習などは「答えのある問題を解ける能力の高さ」が重要となりますが、研究となると「答えの見つからない問題の答えを見つける方法を考えて、それに挑んでいく能力」が必要となります。そういった能力をこの2年間で身に付けてもらったことを非常にうれしく思います。

皆さんはこれから大学院へ進学したり、会社に就職したり、それぞれの道で新たなスタートを切るようになります。専攻科で学んだことを忘れずに、夢に向かって大きく羽ばたいて下さい。

専攻科長 大島 功三



3年生の時、大切な仲間たちが12人教室を後にし、今は少ない人数になってしまいました。それでも数少ない学校行事では一人一人が活躍し、かけがえのない思い出を残すことができました。

また、自主休校、課題の答えは酷似、授業中机を指でいじっている。そんな我々を無事5年生まで導いて下さった機械科の神様たち、先生方には頭が上がりません。本当にありがとうございました。

僕は北海道の永住権を手に入れましたが、みんなは4月からいろいろな場所に旅立ちます。これからみんな就職、進学と自分の道を歩いて成長して行きます。いつか、今まで幾多の困難に立ち向かってきた仲間たちにまた出会う日がとても楽しみです！

何と言われようとも最高のクラスでした！

機械システム工学科5年 中村 圭汰



学級担任から



機械システム工学科

■ 機械システム工学科5年の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、保護者の皆様にはこれまでのご支援とご協力に感謝を申し上げますとともに、卒業を迎えることができましたことを心よりお慶び申し上げます。3年生のときは学内で多人数クラスということもあり、皆さんにとっては毎日が口うるさい担任だったかと思います。卒業することになった現在の皆さんは大人の雰囲気が見られるようになり、着実に成長してきた(?)ことを嬉しく思っています。卒業後は、様々な道へ進むこととなります。それぞれの立場でこれまでとは違った苦労があると思いますが、それ以上に嬉しいことをたくさん経験できるでしょう。各自の目標に向かって意欲的に取り組んでくれると信じ、一層の飛躍を期待しています。一人ひとりに幸あれ！

機械システム工学科5年担任 後藤 孝行



私たち5Eは、現在37名在籍しています。ほかのクラスと比較してもとても大人しいですが、楽しい時はみんなで盛り上がるというメリハリのあるクラスで、私は居心地がよくとてもいいクラスだと思っています。

担任の吉本先生には、本当にお世話になりました。クラスで問題が起きた時など、学生のことを第一に考えて助けてもらいました。また、体調が悪いのにも関わらずクラスの一人一人の進路に対して精一杯の対応をいただき、みんな満足の行く結果になったと思います。本当にありがとうございました。

学科長の土橋先生は、私たちと一緒に卒業ということになり、とても寂しい気持ちでいっぱいですが、楽しかったです。今までありがとうございました。そして、お疲れ様でした。

最後に、本当にこのクラスは楽しくて最高でした。卒業してからも、同窓会を企画してこの5年間の思い出を一生語り合えることを心から願います。

電気情報工学科5年 藤井 辰好



学級担任から

電気情報工学科

卒業おめでとうございます。私が担任となった時には、おとなしい感じのクラスかなと思ったのですが、体育大会では上位に入り、高専祭ではクラスで出店するなど、目標が定まると団結して力を発揮するクラスでした。就職する人は、これから責任も大きくなり、学校とは違って、自分の力だけでは乗り越えられない壁に直面することもあると思います。そんな時には、先輩方や友人達の協力を得ながら、今まで高専で培ってきた自分の力を信じて、頑張ってほしいと思います。また進学する人は、より専門的な知識を身につけると共に、種々の経験を通して、就職までに自分にもっと磨きをかけてください。20代の10年間は何事にもチャレンジできる時で、この時期に得た経験はこれからの人生に役立つ大きな財産になります。目標と向上心を持って、また健康に十分留意して、充実した人生を送ってください。君たちの今後の活躍を心から祈念しています。

電気情報工学科5年担任 吉本 健一



システム制御情報工学科

5Sは、一見穏やかなクラスですが、やる時はやる、弾ける時は弾ける、メリハリのあるハイテンション学級で、大柏学級として初めて体育祭優勝を飾るという歴史も作りました。とても誇り高いです。

3年から担任をして下さいました大柏先生、1・2年生の時の担任の本庄先生、木本先生、大変お世話になりました。また、面接練習をして下さいました中村先生、卒業研究でお世話になりすぎた三井先生、いつも最高のパフォーマンスをして下さる根本先生、そのほか沢山の先生方の支えにより学校生活を充実させることができました。本当にありがとうございました。

私は、卒業後は本州に就職します。寂しさもありますが新しい出会いもあるのでとても楽しみです。仕事については後ろ向きにならず、高専での経験を忘れず、積極的に全力で自分らしく取り組んでいきたいです。ご声援のほどよろしく申し上げます。5年間ありがとうございました！

システム制御情報工学科5年 柳原 集



学級担任から



システム制御情報工学科5年生諸君、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。「台車」ありがとうございました。誕生日に台車が贈られて驚きましたが、台車は嫌いではないので今後も有効に利用させていただきます。高体連の引率で不在でしたが体育大会優勝も驚きました。私がじゃまをしない方が力を出せるのでしょうか。インフルエンザによる突然の学級閉鎖にも驚きましたが、登校日にはほぼ全員が教室に揃っていて安心しました。しかし授業が密集し卒業研究発表会も2週間も遅れて行われるなど、最後まで忙しかったですね。他にもいろいろなことがありましたが、無事、卒業を迎えることができたのは、お父さん、お母さん、ご家族の支え、多くの先生方の支えがあったからだということを感じておいて下さい。最後に「受けるよりも与えるほうが幸いである」「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい」です。

システム制御情報工学科5年担任 大柏 哲治



私にとって5年間の高専生活は、自分の成長を実感できる時間でした。

まず、勉強面では、先生方の授業内容が基礎から応用まで網羅されており、非常にわかりやすいものでした。その上、授業時間外の質問も快く対応してくださったので、わからないことをその都度解決することができ、自分のレベルに合わせて着実に力をつけていくことができたと思います。

また、精神面に関しては高専の特徴である自主性を重んじる自由な校風に育てられ、充実した学生生活を送ることができました。これから私達は、就職や進学と進む道は人それぞれですが、この学校での経験を糧にして新たな道を切り開いていきたいと思っています。

最後に、お世話になった担任の小寺先生をはじめとする全ての先生方と、苦楽を共に過ごしてきたクラスメイトに最大の感謝を送ります。

物質化学工学科5年 松田 大道



物質化学工学科

学級担任から

卒業おめでとうございます。時の過ぎるのは早いもので、皆さんの担任に就いたのが昨日の日のように感じます。

このクラスでは、スローガンとして、3年間一貫して「自立」を掲げてきました。人はひとりで生きていけません、「公」の中で依存や束縛することなく、バランスを持った「個」であってほしいとの願いからです。担任の願いが通じたのか自分をしっかり持った子が多かったように感じます。

世の中は不透明さを増していますが、このクラスで学び、卒業した皆さんであれば、上手くこの時代を生き抜いていけると確信しております。常に学ぶ気持ちを忘れず、高専で身に付けた知識・技能を発展させて下さい。また、何事にも感謝の気持ちを忘れず、高専の卒業生であることを誇れる人生を歩んで下さい。皆さんのこれからの活躍を楽しみにしています。

物質化学工学科5年担任 小寺 史浩



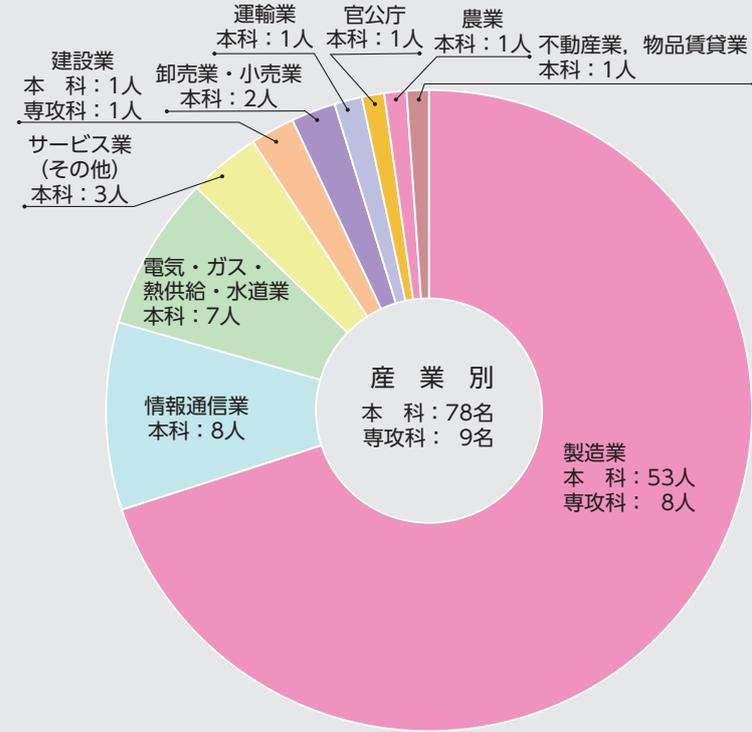
平成28年度 卒業生・修了生 進路状況

<就職> 本科78名 専攻科9名 本科・専攻科 就職先

企業等名	地域	種別	機械	電気	制御	化学	生産	応用
旭化成(株)	関東	製造業				2	1	
(株)アサヒファシリティズ	関東	不動産業、物品賃貸業	1					
ANA ベースメンテナンステクノス(株)	関東	製造業	1					
いすゞエンジニアリング(株)	関東	製造業	1					
出光興産(株)	関東	製造業		1				
(株)ウエルネット	関東	情報通信業		1	1			
エヌエスディ(株)	中部	製造業			1			
(株)エヌ・ティ・ティ エムイー	関東	情報通信業		1				
M-SOLUTIONS (株)	関東	情報通信業			1			
王子製紙(株)苫小牧工場	北海道	製造業		1				
オムロンフィールドエンジニアリング北海道(株)	北海道	サービス業(その他)		1				
帯広ガス(株)	北海道	電気・ガス・熱供給・水道業		1				
花王(株)	関東	製造業				1		
キヤノン(株)	関東	製造業	1		1			
キヤノンマーケティングジャパン(株)	関東	サービス業(その他)		1				
キャタピラーイーストジャパン(株)	関東	製造業	1					
小島プレス工業(株)	中部	製造業	1					
コニカミノルタジャパン(株)	関東	製造業	1					
札幌市役所	北海道	官公庁			1			
札幌日信電子(株)	北海道	製造業					1	
サッポロビール(株)	関東	製造業				1		
サントリープロダクツ(株)	関東	製造業		1				
JX エンジニアリング(株)	関東	サービス業(その他)		1				
ジャパンファインプロダクツ(株)	関東	製造業	1					
ジャパンマリンユナイテッド(株)津事業所	中部	製造業	1					
ジョンソンコントロールズ(株)	関東	製造業		2	1			
(株)セーヴ・エナジー	北海道	製造業	1					
セイコーエプソン(株)	中部	製造業					1	
ソニーエンジニアリング(株)	関東	製造業	1					
第一三共ケミカルファーマ(株)	関東	製造業				1		
大旺鋼球製造(株)北海道工場	北海道	製造業	1					
ダイキン工業(株)	近畿	製造業			1			
大日精化工業(株)	関東	製造業				1		
大陽日酸(株)	関東	製造業			1			
匠プロダクツ(株)	北海道	情報通信業			1			
(株)榎崎製作所	北海道	製造業		1				
(株)東京アールアンドデー	関東	製造業			1			
東京食品機械(株)	北海道	卸売業、小売業	1					
東芝メディカルシステムズ(株)	関東	製造業		1	1			
東芝エレベータ(株)	関東	製造業		1				
東芝プラントシステム(株)	関東	建設業					1	
東レ(株)	関東	製造業				1		
苫東石油備蓄(株)	関東	製造業	1					
(株)巴商会	関東	卸売業、小売業				1		
日本オーチス・エレベータ(株)	関東	製造業		1				
一般財団法人 日本血液製剤機構	関東	製造業			1	1		
日本触媒(株)	近畿	製造業				1		
日本トーカンパッケージ(株)	関東	製造業			1			
(株)パイロットコーポレーション	関東	製造業			1			
(株)日立ビルシステム	関東	製造業	1					
(株)日立パワーソリューションズ	関東	製造業	1				2	
(株)檜山鐵工所	北海道	製造業	1					
富士古河 E & C (株)	関東	建設業		1				
フジテック(株)	関東	製造業	1					
(株)ホクエイ	北海道	製造業					1	
北海道エア・ウォーター・エンジニアリング(株)	北海道	製造業			1			
北海道ガス(株)	北海道	電気・ガス・熱供給・水道業	1			1		
北海道コカ・コーラプロダクツ(株)	北海道	製造業				1		
北海道曹達(株)	北海道	製造業				1		
北海道電力(株)	北海道	電気・ガス・熱供給・水道業		4				
北海道旅客鉄道(株)	北海道	運輸業	1					
三菱電機ビルテクノサービス(株)	関東	製造業	1				1	
マツダ(株)	中国	製造業			1			
(株)牧野フライス製作所	関東	製造業			1			
三井化学(株)	関東	製造業				1		
(株)メンバーズ	関東	情報通信業		1	2			
(株)モビテック	中部	製造業	1					
(株)ユニシス	関東	製造業					1	
雪印メグミルク(株)	関東	製造業			1			
その他	北海道	農業	1					
合計			23	21	20	14	9	0

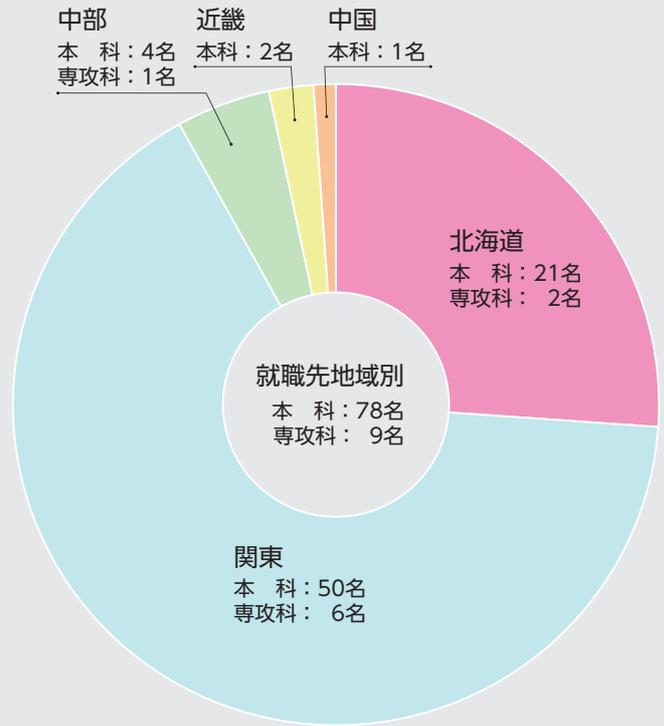
就職先産業別

分類	本科	専攻科	合計
製造業	53	8	61
情報通信業	8		8
電気・ガス・熱供給・水道業	7		7
サービス業(その他)	3		3
建設業	1	1	2
卸売業・小売業	2		2
運輸業	1		1
官公庁	1		1
農業	1		1
不動産業, 物品賃貸業	1		1
計	78	9	87



就職先地域別

地域	本科	専攻科	合計
北海道	21	2	23
関東	50	6	56
中部	4	1	5
近畿	2		2
中国	1		1
合計	78	9	87



<進学>本科 65名 専攻科 13名 本科進学先

進学先	機械	電気	制御	化学	計
旭川高専専攻科		2	6	10	18
北海道大学	1	2	1	1	5
北海道教育大学	1				1
室蘭工業大学		1	1	4	6
北見工業大学	1				1
帯広畜産大学				1	1
はこだて未来大学			1		1
弘前大学		1		1	2
宇都宮大学		1			1
筑波大学			1		1
東京大学		1			1
信州大学		1			1
新潟大学		1			1
長岡技術科学大学		1		2	3
豊橋技術科学大学	3	3	6	1	13
岐阜大学		1			1
大阪大学				1	1
神戸大学				1	1
広島大学	1		1		2
島根大学				1	1
高知大学			1		1
熊本大学	1				1
その他				1	1
計	8	15	18	24	65

専攻科進学先

進学先	生産	応用	計
北海道大学大学院	6	3	9
早稲田大学大学院	1		1
総合研究大学院大学		1	1
長岡技術科学大学大学院	1		1
豊橋技術科学大学大学院	1		1
計	9	4	13



退職する教職員の紹介

次の教職員が本校を退職します。

平成 29 年 2 月 28 日付

教員

機械システム工学科・准教授

河野 義 樹

職員

技術創造部基盤技術グループ

鈴木 利結樹

平成 29 年 3 月 31 日付

教員

電気情報工学科・教授

土 橋 剛

システム制御情報工学科・教授

橋 本 直 樹

一般理数科・教授

近 藤 真 一

一般理数科・准教授

渡 辺 み の り

職員

事務部長

村 上 力 夫

総務課契約係自動車運転手

平 野 政 明

定年退職教員からのご挨拶

旭川高専での思い出

昭和 52 年に本校に赴任してから、かれこれ 40 年の歳月が経とうとしています。最初の頃の思い出に触れると、マイコンが発明されて間もない頃で、8080 とロジック IC を半田付けしてハンドアSEMBルでマイコンを動かしていました。やがてパソコンが発売されてベーシック言語が使えるようになり、学生実験のテーマに入れるため実験書を用意しました。学校には沖電気製の電子計算機 OKITAC4500 が唯一空調付の部屋に鎮座してしまっていて、この計算機は今のパソコンには遥かに及ばない代物でした。当時の学生には神聖な存在に見えたのでしょうか、電算機同好会の顧問をしばらく引き受けることになり、高専祭には FORTRAN プログラムのデバッグを夜遅くまで付き合わされたのを記憶しています。また、趣味でやっていたアマチュア無線同好会と運動部は最初剣道部の顧問になりましたが、こちらは後に少し経験のあったバレーボール部に移ることになりました。その頃 FORTRAN を用いた研究で卒研を担当した学生が、今は、起業してソフトウェア会社の社長になっており、学生の就職に困った時には大変お世話になっています。研究は最初マイクロ波の数値計算などに手を染めましたがものにならずいたところ、昭和 57 年にスパッタリング装置が特別設備として導入されたのを機に薄膜材料の研究を始め、後に多層誘電体薄膜の基礎的研究として学位論文にまとめることになりました。その後、オージェ電子分光分析装置なども導入され、電気材料実験室も研究室らしい環境に少しは整えられたかと思えます。

今日まで、無線、コンピュータ、物性と好きなことを勉強させていただき、その間多くの学生達と時を共に過ごし、互いに感化し合えたことは何のものにも代え難く感謝の念に堪えません。最近も就職の求人でお訪ねて来てくれる OB の中には、日本を代表する企業で要職に就いているのを聞くにつけ、過ぎ去った時の長さを感じると共に若い学生の可能性に改めて感心しています。近く本校の組織も大きく変わるようですが、皆様のご健康と旭川高専の益々の発展を祈念いたします。また、これまでお世話になりました教職員ならびにご父兄の方々に深く感謝いたします。



土橋 剛

電気情報工学科・教授

わが母校、旭川高専



橋本 直樹

システム制御情報工学科・教授

私は産まれも育ちも旭川っ子です。旭川で生まれ、聖母幼稚園、東町小学校、光陽中学校、東高校でお世話になりました。幼稚園ではチーズが昼食で振舞われ、初めて見るもので食べられず泣いていました。小学校、中学校は両校とも隣り合っ、実家からすぐの所にあり大変便利でした。旭川東高校に進学し、周りの同級生が勉強するのを見て吃驚しました。これでは大変だと思いつつも、今ひとつ勉強に専念出来ない1年生でした。2年生になり、やっと北海道大学に進学する事に決めました。北大の入試では、初めて一人でホテルに泊まりました。入学試験は北大の教養学部で行われるので、ホテルから歩いていき、北大は本当に広いなと思いました。入学して農学部の裏の方に行き、更に広い農場を見て、北大の広さに感激しました。教養学部では、日本各地から来ている学生がいて、喋るときの発音が色々あり楽しい学園生活でした。3年生になり、工学部精密工学科に配属になり、私の恩師、沖野教授の講座の学生になり毎日が勉強になりました。そう言いながら、講座の学生たちでトランプ遊びをよくしていました。大学院の学生になり、教授からコーネル大学に1年半行って来いと言われ、初めての外国旅行をしました。喋られない英語を使いながらも、無事仕事を終えて帰ってきました。

大学院を修了し、就職先を決めなければ成りません。旭川高専の先輩たちからラブコールを戴き、就職することに決めました。昭和56年秋に旭川高専に赴任し、5年生の卒業研究を担当しました。5人の5年生、館野君、竹内君、坂野君、吉野君、原田君を担当し、充実した学園生活でした。今でも突然、学校に来る元学生がいます。昭和58年にはIBM4331という電子計算機を導入しました。ディスプレイがあるコンピュータで一人一人が自由に使えるシステムです。鼻高々の電子計算機で学生も競って使っていました。昭和62年には砂澤ビッキさんの木彫が中庭に設置されました。旭川高専も工学だけではなく、教養もある学校であると心の中で鼻高々でした。平成6年から公開講座でコンピュータに関連する講座を始めました。平成6年、7年はコンピュータ・グラフィック入門、平成8年はCAD/CAM入門、平成9年はホームページ作成などを行いました。平成8年から、旭川高専先端技術キャラバン隊と言うチームを作り、田上先生に隊長になってもらい、北海道の中学校に、本校のモデリングマシンを車に載せ、旭川近郊は元より、利尻島の中学校まで出張しました。生徒さんは元より中学校の先生たちが興味津々でした。中には中学校を卒業して旭川高専に入学した学生もいました。余裕のある大らかな時代でした。

その後は、立体地図の作成に熱を入れてしまい、20万分の1の縮尺の日本列島を作ってしまう、旭川市博物館等で複数の展示を行いました。また、小中学校、博物館等から作成依頼が多数来て、嬉しい反面、忙しくて大変でした。学科長、教務主事の仕事を終え、現在は情報処理センター長の仕事をつつがなく終わるように叱咤激励されています。

旭川高専に幸あれ。

学生達との想い出



近藤 真一

一般理数科・教授

私は、大学を出た後、14年間勤めた企業から転職し、平成8年4月に本校の数学教員として赴任しました。北大工学部における学位論文は「空間物体（直線、曲線）の位置計測」に関する研究で、空間図形や行列などの線形代数、最適化問題、偏微分を利用してきました。また、企業では「超音波診断装置」の研究・開発において、微積分を用いた音場解析やアフィン変換、フィルタリングによる画像処理を扱ってきました。このように、私は、数学科出身ではありませんが数学を利用して来た立場から、学生達には、大学や企業でエンジニアとして研究・開発に携わるには数学が大変重要であることを、折に触れて話してきたつもりであります。

本校で21年間務めた中で、強く印象に残っていることは、担任として接した学生達のことです。赴任した年度は、数学教員が同時に3人代わったという事情から、私は赴任当初から2Sの担任を持ちました。始業式の翌日、2～3人の学生が教員室を訪れ「先生、コーヒー飲ませてや」と言ってきたのには、ちょっと驚きましたが、きっと担任がどんな人物なのか様子をうかがいに来たのだと思います。このクラスは、40人中18人が女子学生であり、5泊6日の見学旅行で京都、奈良、東京と回ったのですが、男女間のトラブルが起きないかかなり気を遣ったものです。担任団の先生方にも非常によくサポートしていただき、ディズニーランドでは学生のみならず引率団も楽しい一時を過ごしたことを思い出します。また、担任3回5年間で4～5名の停学者を出してしまいました。無期停学の学生指導で、年明け早々、猛吹雪の中、富良野まで家庭訪問に行ったこともありました。担任を持った学生達が、5年間ないし6年間で無事卒業し、大学や企業に進んでいく姿を見ると、私も少しは彼らの役に立ったのではないかなと思います。

本校での後半は、学生主事、学科長、学生相談室長と学校運営側を担当することが多く、主事補や相談員を担当して下さった教員、担当事務の学生係の皆様には大変お世話になりました。心残りは、もう1回ぐらい担任を試してみたかったです。本校も、今後、学科構成も含め大きく変わろうとしています。教職員が一致団結し、学生とのよい関係を築きながら、この変革の時期を乗り越えていくことを願っています。

第1学年クラス紹介

第1学年の各クラスの雰囲気や様子について担任と代表の学生から一言ずついただきました！

機械システム工学科

担任 根本 聡

1Mは、男子39女子3計42名（進路変更有り現在41名）で発足した、大変明るく活発なクラスです。高専は普通高校とは違い、各教科の授業に追われます。通学に片道一時間以上かかる学生も多く、日々課題を積み残すことなく消化することが肝心です。部活と学校行事に取り組む方が一日の時間の貴重さがわかり、短時間に課題をこなす集中力がうまれやすいものです。大体様子がわかってきた今、高専一人旅を仲間とともにゆく、あとは実践あるのみです。



代表 中谷 悠斗

イケメンの多さが自慢の1Mは、イケメンの担任と共に密度の高い一年を過ごしてきました。行事には積極的に参加し、常にぎやかなクラスで、退屈な時間のないとても楽しい学校生活が送れました。今は力を溜めている時期なので、クラスの力をうまく見せられていないかも知れませんが、確実に力のあるクラスです。史上最強の担任と共に最高のクラスを作り上げていきます。



電気情報工学科

担任 降旗 康彦

内気な性格の学生が多く、入学当初は静かすぎるくらいでしたが、少しずつお互いが分かってきて、最近は自分の色を出して付き合えるようになってきたと思います。好きなことはとことんやるという学生が多く、とても良いところだと思いますが、時と場合をわきまえてほしいと思うこともたまにあります。皆まだまだ発展途上という感じですが、これからですから、期待しています。



代表 一條 圭太、太田 葵

1Eには色々な人が居ます。数学が得意な人や苦手な人、ゲームが上手い人、パソコンに強い人、盛り上げるのが上手な人、運動神経の良い人、静かに過ごしている人、勉強が全然出来ない人…などなど。たまにみんな疲れていて、休み時間が静かな時もありますが、普通のクラスの雰囲気は明るいです。担任の降旗先生も優しく、クラスの事を思って頂いていて、時には迷惑や苦勞をかけてしまいますが、クラス一同感謝しています。

システム制御情報工学科

担任 渡辺 みのり

入学直後の合宿研修のスポーツ大会で、1Sは2種目優勝しました。特に、ミニバレーの決勝は白熱し、コートに立つ学生はもちろん、その他の学生も仲間を本気で応援し、共に勝利を分かち合う姿を見て、良いクラスになると思いました。その印象は今も変わりません。皆様々な個性を持ち合わせていますが、本当に仲が良く、和気藹々と温かいクラスです。このまま卒業まで、助け合い、かけがえのない高専生活を送って欲しいと思います。



代表 酒井 結友、川村 勇渡

私達1Sは、行事に積極的で盛り上がりやすく、体育大会では8位という好成績を残す事のできる団結力もあります。授業を受ける時も多くの質問をして、充実した学校生活を送っています。クラス内ではいつも和気あいあいと明るく、仲が良いのですが、一方でメリハリが付いていないことが多々あります。これから2年生になり、後輩を持つ学年になるという自覚を持ち、オンとオフを付けられるクラスを目指します。



物質化学工学科

担任 櫻井 靖子

自主性の高い学生が多く、担任はこの一年間、学生にしばしば助けられました。逆に、テンションの高い学生も多く、学生が担任から注意を受けたこともしばしば…。今後もさまざまな経験を通じ、目の前の相手や周りの人々を気遣いながら行動できるよう願っています。女子の多いクラスですが、「男子だから」、「女子だから」はあまり気にせず、個々の学生に合った力を発揮できる環境を保つよう、努めていきたいと思っています。



代表 谷野 友香

私たち1年C組は、1年Chemistry組、かつ、1年Cherry組！授業と休み時間のテンションの差がない、ピュアなクラスです（怒られやすいかも）！女子が15人もいるクラスですが、男女の仲はとても良く、笑い合い、バカにし合い、協力し合う、まとまりのいい素敵なメンツです♡ このピュアさと、仲の良さが、これからも変わりませんように！

第4学年見学旅行

本校では、第4学年の学生を対象に、

機械システム工学科 4年 谷口 智義

機械システム工学科では、北日本精機(株)、北海道電力(株) 苫東厚真発電所、日鉄住金テックスエンジ(株)室蘭支店、(株) 日本製鋼所室蘭製作所、山崎製パン(株)札幌工場、北海道 セキスイハイム工業(株)・積水化学北海道(株)の職場を見学させて頂きました。どの企業も興味深かったですが、個人的には、北日本精機(株)が特に印象に残りました。

北日本精機(株)はベアリングメーカーです。私はロボット・ラボラトリーという部活に所属し、NHKで放映される“高専ロボコン”に出場するため、ロボットを設計・製作しています。その重要な部品の一つがベアリングです。“百聞は一見に如かず”とはよく言いますが、普段何気なく使っている部品の製造工程を見学でき、とても勉強になりました。

今回の見学では、学校で習ったことが、実際に現場で使われているところを見学できました。また、企業の方の生の声を拝聴出来た点もよかったです。これらの経験を、今後の進路活動に役立てていきたいと思えます。



電気情報工学科 4年 林 和馬

今回の見学旅行では、札幌市、石狩市及び千歳市等にある計6社の企業を見学させていただきました。見学した業種としては、通信業、製造業あるいは電力業(火力発電所)など多岐にわたっていました。

その中で私が最も印象に残った企業は、株式会社デンソー北海道(千歳市)です。デンソー北海道では車に使われている中低圧センサ、高圧センサ、イナーシャセンサなどを製作している企業で工場自体もとても大きくて内部もきれいでした。工場見学ではどのような装置で部品がどのような流れで作られているのかを見学することができました。また、他の工場とは違い、製造機械の大きさを普通より小さくしたりエラーが出た時にわかりやすいようにすることで生産率をアップさせているということがわかり、とても驚きました。デンソー北海道の見学から自分の業種選択の視野が広まったと思います。

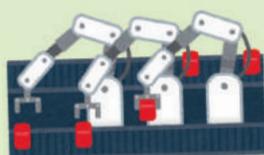


システム制御情報工学科 4年 梅野 達哉

3日間の見学旅行を通じ、様々な業種の企業を見たことで一体どのような企業が良いのか分からないという気持ちになりましたが、今回の見学旅行で得た経験をもとにして改めて企業を選ぶことができるため、非常に良い経験になったと思います。

見学した先の6つの企業は、どれも初めて見るものばかりで、特に高さ10m近くある切削機械や都市の地下を走るケーブルなどは、私の希望している進路ではこの先見ることは無いと思います。私は工業系、通信系の企業は残業や不定休が多く休みを取りにくいというイメージがあり不安でしたが、社員が休みを取れるよう企業も工夫していることを知ることができて安心しました。

これから進路を決めるにあたって、私たちに合った企業を選ぶには一体どのようなすれば良いのかを知ることができました。残りの学生生活で新しいことに沢山挑戦して、進路選択の時に自分のことをアピールできるようにしたいです。



物質化学工学科 4年 柳本 はるの

見学旅行では、様々な種類の工場を多く見ることができました。インターネットやパンフレットを見るだけではわからないことの方が多いのだと強く感じました。会社概要や業務内容を見ていても、やはり実際に現場を見たり、社員の方の話を聞かせていただいたりする中で、会社で働くということがどのようなことなのか、少しですがわかりました。普段見ることのない規模の工場装置や研究所を見ることができ、お給料の話や福利厚生、会社の選び方などを話して下さった会社もあり、今後自分が就職する際に必ず役に立つようなお話を聞いたことが非常に良かったです。

また、企業見学以外のバス移動やホテルで過ごした時間で友達との交流が多くでき、学校ではあまり話すことのなかった人とも話す機会がありました。もう少し自由時間が欲しかったかなとも思いますが、見学する企業が多く、非常に予定が詰まっていた中でも楽しむことのできた見学旅行となりました。



第54回 高専祭

10月22日(土)・23日(日)の両日、本校を会場に高専祭が開催されました。各学科による実験・実習パートやクラブ・同好会による展示、20店以上の飲食パート(模擬店)のほか、小中学生対象のスタンプラリーやビンゴ大会、コンテスト、バンドライブなどたくさんのイベントを催しました。



学生会長 物質化学工学科4年 佐々木 慈生

皆様のご支援のもと、今年も高専祭を終えることが出来ました。

今年は授業時間確保のため、前日準備期間のスケジュールが短縮になったり、当日には初雪が降ったりと予定通りに行かないこともありましたが、最終的には成功という形で終わることができ、ほっとしています。

21日(金)では、前日祭として毎年恒例のビデオコンテストとビンゴ大会が行われました。ビデオコンテストは近年出品数が減少する傾向にあります。副賞が微妙に豪華なので来年はたくさんの作品が観られることを期待しています。ビンゴ大会では総額15万円相当の素晴らしい景品が並びました。ただiPadやPS VITAやらが当たってもヤフオクに出さないであげてください。限られた予算の中で、学生の要望を反映しながら一生懸命景品を選んでくれた学生会の人がかわいそうなのと、大人が色々うさいます。

一般公開の22日(土)、23日(日)では、30を超える団体による飲食店・展示・実験実習コーナーが盛りだくさんでした。悪天候であったにも関わらずどこも大盛況で、特に高専の専門性を生かした実験実習パートでは小中学生のお客さまにもたくさんお越しいただきました。学生の個性が色濃く反映する昼の部ではご来場頂いたお客さまに高専の良さや学生のありのままの様子を見ていただけたと思います。夜の部では本格的な照明音響機材による迫力のパフォーマンス、バンドライブが行われました。他の学校祭とは一味違うライブイベント、来年もケガ人を出さない程度に暴れてくれれば嬉しいです。

最後になりましたが、高専祭開催にあたって多くの協力をいただきました教職員の方々、外部企業の皆様、そして入稿ギリギリまでこのしょうもない原稿を待っていただいたM井先生、本当にありがとうございました！



高専祭実行委員長 電気情報工学科4年 岩島 圭吾

セメスター制が導入されて2年目の高専祭。昨年は大胆なスケジュールの変更をしたため、今年は昨年の経験を基に順調に準備を進めることができました。しかし昨年同様、夏期休業が問題点となりました。夏期休業が長いことは1人の学生として嬉しいことですが、実行委員長としては準備期間が短くなるため複雑な気持ちでした。

高専祭当日は、来場者の方々にはビンゴ大会やスタンプラリー、各出店で楽しんでいただけたと思います。学生のみなさんは各出店や中夜祭や後夜祭ライブで盛り上がったのではないかと思います。トラブルもいくつかありましたが、雪も降りましたが無事に終わることができました。協力してくださった教職員の方々や業者の方々、全学生のみなさんにこの場を借りて厚くお礼申し上げます。また一緒に運営をしてくれた学生会員にも心から感謝いたします。

今年判明した改善点はまだまだありますし、今年新たに始めたものもあります。その年だからこそその良かった点や悪かった点、想定外の状況も起こります。来年の実行委員長には今年の経験を活かしてより良い高専祭にしていってほしいです。



留学生実地見学旅行と留学生交流会



本校に在籍する留学生は毎年、チューター学生とともに参加する「留学生実地見学旅行」や道内4高専の留学生が一堂に会する「留学生交流会」に参加し、様々な体験学習を通して見聞を深めています。

留学生実地見学旅行は、留学生5名、チューター学生4名及び引率2名の計11名が参加し、北見工業大学、京セラ株式会社北海道北見工場、丸瀬布昆虫生態館、山の水族館を見学しました。

留学生交流会は、留学生5名、引率1名の計6名が参加し、スキー・スノーボードやアイヌ古式舞踏鑑賞など、ウィンタースポーツ及び体験学習を行いました。

どちらも、様々な体験や交流をすることができ、充実した旅行となりました。



物質化学工学科4年 ファルハナ (マレーシア留学生)

今年の1月7日から9日に釧路市(阿寒湖)において、道内4つの高専の留学生の「留学生交流会」を開催しました。このプログラムの主な目的は、道内の4つの高専の留学生たちを集め、勉強・生活状況等について情報を交換したり、ウィンタースポーツ(スノーボードやスキーなど)を楽しんだりすることです。

このプログラムに通じて、色々な新しいことを経験できました。例えば、マレーシア以外の留学生もいたことで、自分の国についての話をし、お互いにいろいろな意見と考えを交換できました。彼らから新しい言語を学ぶ機会もできていました。その上、体験学習では、アイヌの伝統的なパフォーマンスを見て、アイヌのダンスも皆と一緒に楽しく踊りました。

2回目に4つの高専の留学生たちが会う時、たくさんのいい思い出が出来ました。1年ぶりの先輩たちと会う機会が今までなかったから、このプログラムは本当に楽しみにしました。釧路高専(担当者)に対して、ワザワザこのプログラムを開催してくれて、大変ありがとうございます。来年度の交流会は旭川高専が担当する予定および私の最後の交流会ですから、本当に楽しみにしています。



機械システム工学科3年 アイス (タイ留学生)

この度釧路高専が行なった留学生交流会に参加させていただきました。久しぶりに北海道の東の方に行くことになりました。釧路市は旭川高専からバスでほぼ6時間かかったので1日目はたいていバスで時間を潰されました。その日の夜、初めて道内の高専にいる留学生たちとあって自己紹介して新しい友達ができました。2日目にスキー体験から始めました。私にとっては初めてではないので楽しくスノーボードをやることができましたが、だいたい留学生はあまりできないみたいなのであまり楽しむことができないかなと私は思いました。そして、私たちは阿寒湖に住んでいるアイヌさんたちからアイヌの風俗習慣を教してもらったり、アイヌの伝統的な踊りを見たりすることができました。この前にアイヌという言葉は耳にしたことがあるけれども、今回の交流会を通して詳しく知ることができてとてもいい経験になりました。その日の夜に温泉に入ってから私は今回知合ったマレーシア人と一緒にとカードゲームをやりながら話し合うことができました。

実はこの交流会に来る前に私は少し心配したことがあります。それは、今回来る留学生のタイ人は私しかいなかったことでした。しかし、この交流会は「積極的に話しかけてあげることができたら、ちゃんと相手は答えてくれる」ということを教えてくれました。この交流会は本当に楽しかったです。良い活動を行なってくれてありがとうございました。少し改善してほしいことは時間のことですね。今回、2泊3日の交流会で1日目と3日目はだいたいバスで時間がなくなったので1日目から活動できない感じがあります。来年も留学生交流会を楽しんでいます。

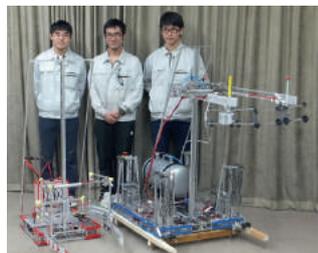


旭川高専では、「ロボコン」をはじめ「プロコン」や「デザコン」と呼ばれる全国の高専が競うコンテスト・コンペティション、そして全国の高校生、高専生及び大学生が自ら考え出した発明・デザイン（意匠）を応募する「パテコン」に積極的に参加し、優秀な成績を収めています。

アイデア対決・ 全国高等専門学校 ロボットコンテスト



全国大会出場！ 5年連続地区大会優勝！



ロボコンの学び 電気情報工学科5年 笹村 樹生

僕は高専入学前から、テレビなどで色んな人が面白いものを作っているのを見て、「もっと勉強して自分も面白いものを作ろう」と、理数系の勉強に打ち込んでいました。高専ロボコンも僕にそういう刺激をくれていたものの一つで、僕は高専に入りロボコンをすることにしました。

ロボット・ラボラトリでは、ロボットを動かす回路とソフトを担当する班に配属されました。先輩のロボット製作を手伝いながら、回路の設計の仕方やプログラムの書き方を先輩に教えてもらいました。自分のできることがどんどん広がっていき、だんだんと自信がついていきました。

3年生になると、僕はロボコンに出場するロボットの回路やソフトを任されるようになりました。自分のチームを持ち、先輩たちのように大勢の観客とカメラの前で戦うロボットを作れることはとても誇らしいことで、僕はそれまでの知識を総動員して部活に励みました。しかし、僕のロボットは思うように動きませんでした。いくらプログラムを変え、回路の不具合を探してもうまく動かないのです。結局そのまま地区大会に臨むことになり、先輩たちのチームに敗れてしまいました。

大会が終わってからは、そのロボットはアイデアの時点で破綻していることに気づきました。物理的に不可能なことは、いくらプログラムを変えても不可能だったのです。自分の専門知識にとらわれ、周りが見えなくなっていたのです。うまくいかないときにはまず仲間に相談し、一緒に考えるべきでした。

そのことに気づき、次の年からはもっと仲間に相談するようになりました。その甲斐もあってか4年生からは地区大会に優勝し、全国大会に出場できるようになりました。自分の知識を広げることだけを考えていた僕は、ロボコンを通して仲間と協力することを学ぶことができました。このような素晴らしい学びの機会を作ってくださった先生方や、技術と心構えを教えてくださいましたOBの先輩方、共に苦楽を分かち合った同輩、手の回らないことを積極的にやってくれた後輩たち、そしてご支援・ご声援をくださった皆様、本当にありがとうございました。



「最後の両国国技館を目指して」ロボット・ラボラトリ顧問 三井 聡

2回目の全国優勝を果たすまで、ロボット・ラボラトリは「目指せ両国国技館」を合言葉に高専ロボコン地区大会に挑んできました。しかし、次年度の全国大会は高専ロボコン30周年記念をきっかけに会場が変わるようです。ということで今大会は両国国技館での最後の戦いとなります。

テーマはロボットニューフロンティア（ロボットによる新大陸開拓）です。ロボットが障害を乗り越え、新大陸を開拓した証として箱を積み上げ「岩」を築き上げる競技です。フィールドには「船」が置かれ、この「船」をどう使いこなすのか、どのようにして箱を運ぶのか、3分の間に何個の箱を運べるのか、どうやって積み上げるのかなど、アイデアの出どころがたくさんあります。さらに、台数および展開サイズに制限がないため、ロボットの重量に悩まされた大会でもありました。

10月16日に釧路工業高等専門学校第一体育館にて、高専ロボコン2016北海道地区大会が行われました。5年生4人が中心のAチームと4年生4人が中心のBチームで地区大会に挑みました。Aチームは昨年全国大会ベスト8の5年生が中心のチームです。しかし就職活動、受験準備、Bチームの部品製作支援などで活動時間が限られ、アイデア創出から設計、製作までの作業が思うように進みませんでした。電気班がロボットの設計、組み立てをしなければならないくらい切羽詰まった状態で、新しいものは使わない、目の前にある部品、培ってきた経験、蓄えてきた知識を使って短い時間でどのようなロボットを作るかにアイデアが絞られました。

一方、Bチームは3年時に地区大会に出場しています。旭川高専として久々の1回戦負けで悔しさを経験したメンバーです。ロボット製作した経験を持ち、作業に費やす時間がたくさんあるBチームが今年の本命とっていました。今大会は意地の5年生、リベンジの4年生の決勝をイメージして指導してきました。

旭川VS苫小牧・釧路・函館連合の構図は相変わらず、大会を盛り上げるためNHKスタッフからのプレッシャーもいつも以上に強く感じられました。そんな雰囲気の中で、どちらのチームも優勝できるとは思えない不安定なロボットで挑むことになりました。選手だけでなくピットの皆が全力を尽くしましたが、Bチームは一回戦敗退、Aチームは勝ち進むも、決勝では再試合判定勝ち。そこには、地区大会5連覇を果たし、最後の両国国技館に出場できるようになったものの、喜べない選手、顧問がいました。

ふがいない戦いを大いに反省し、地区大会で成し遂げられなかった箱積み完成させ、あわよくば全国大会での勝利をもくろみ、大幅な改良を加えリニューアルしたロボットで全国大会に挑むことにしました。しかし、全国大会まで1か月以上あったにもかかわらず、ロボット製作と調整に多くの時間が費やされ、まともな練習はロボットを搬送する数日前だけだったと思います。今年は根雪になるのが早く、寒い体育館での調整の毎日でした。

11月20日に行われた全国大会は、ロボットの挙動が途中でおかしくなり何もできずに敗退しました。相手もうまくいっていただけに残念な結果でした。7年ぶりの1回戦敗退を経験し、何をやってもうまくいかない年でした。

地区大会5連覇中ではありますが、2年連続でBチームが1回戦負けを喫しており、旭川高専ロボット・ラボラトリの技術レベルが黄色信号の状態にあります。新4年生（現3年生）が2名しかいないため、技術の伝承が引き継がれず、ずるずるとくずれていくような気がしてなりません。電気班にはロボットのレベルを維持するため、モータドライバ、無線送受信などロボットに必要な電子回路とそのプログラムを標準化し、趣味の回路にならないよう、安定した回路とライブラリを作成するよう指導しようと思っています。

来年は地区大会2連敗中のメンバーがAチームとなって地区大会・全国大会に挑みます。30周年記念大会でリベンジを果たすことを期待しています。

最後に、本校教職員、同窓会、後援会、選手親族、ロボコンOBなど大変多くの方々からのご支援、ご声援に対しましてこの場を借りて感謝申し上げます。来年も応援よろしく願い致します。

プログラミングコンテスト

パソコン部顧問 嶋田 鉄兵

10月8日(土)・9日(日)の2日間、三重県伊勢市の伊勢市観光文化会館にて第27回全国高等専門学校プログラミングコンテスト(プロコン)が開催され、本校のパソコン部から機械システム工学科4年 新田 陸 君とシステム制御情報工学科2年 近江 雄哉 君の2名が競技部門に出場しました。

プロコンは課題部門・自由部門・競技部門の3つの部門があります。いずれの部門も6月の予選(書類審査)を経て、通過したチームが10月の本選に出場することができます。本校は今回、競技チームが予選を通過し、本選へ出場しました。

競技部門は毎年テーマが異なっており、今回は「ホントの魅力がミエますか?」と題して、プロコン会場となった三重県にまつわる名所・名産品を題材としたパズルを、コンピュータプログラムの力を借りて制限時間内に解答する、というものでした。また、今回は本校からの参加ができませんでしたが、課題部門では与えられたテーマ(今回はスポーツ)についての作品を、自由部門では自由な発想でつくられた作品を、それぞれプログラムや各種機材を駆使して製作し、会場にて展示・プレゼンテーションするものとなっています。

大会当日は一般の来場のほか動画配信サイト2か所でのインターネット中継が行われ、観客や視聴者の注目が集まるなか、会場のステージ上にて対抗戦が行われました。今回の競技では、様々な形に切られたパズルピースをどのように当てはめるか、プログラムを使って導き出すことが主な課題となっていました。これに加え、パズルピース現物をカメラ等で撮影してパソコンに読み込む作業や、プログラムの結果を基にピースを当てはめる作業などの手作業もあり、チームワークが求められる競技ともなっていました。

他高専のチームがほぼ3名での出場というなか、本校チームは1名少なくやや不利な状況でしたが、入念なプログラムの調整やチームワークの良さもあり、1回戦を通過することができました。準決勝は惜しくも通過することができませんでしたが、本大会で得た経験や反省を、来年度の大会(山口県で開催予定)へつなげてもらいたいと思います。



全国パテントコンテスト・ デザインパテントコンテスト

発明研究会 8年連続入賞!

発明研究会顧問 谷口 牧子

発明研究会に所属する機械システム工学科4年、小島 龍君が、文部科学省、特許庁、独立行政法人工業所有権情報・研修館、日本弁理士会共催の知的財産(発明・工業デザイン)に関するコンテストで、意匠出願支援対象に選出され、平成29年1月23日に、J Pタワーホール&カンファレンスホール(KITTE)で開催された表彰式に出席しました。

発明研究会としては、平成21年度に同コンテストで初めて支援対象に選出されて以来、8年連続で入賞を果たしたことになります。特に、デザインパテントコンテスト部門については、将来、必ず商品として販売可能なアイデアが支援の対象となりました。今回も審査委員長は、宇宙飛行士の毛利 衛さんでした。入賞した学生たちは、記念撮影だけではなく、次年度のコンテスト参加のアイデアについて、毛利さんから貴重なアドバイスもいただいていた。とても印象深い表彰式でした。

科学技術を学ぶ高専生にとって、知的財産を学ぶことは必須です。昨年度は、内閣総理大臣の御膝元である内閣官房主催で知財教育タスクフォースが開催されました。そして、同タスクフォースの提言を受けて、本年1月27日に、内閣府知的財産戦略推進事務局において、第1回目の知財創造教育コンソーシアムが開催されました。日本は、本格的に、国家を挙げて知財教育に取り組み始めました。旭川高専発明研究会は、課外活動として、国の政策の参考になる、先進的な実績を着実に積み上げています。



女子学生の活躍を支援する取り組み

男女共同参画推進室長 富樫 巖

平成 28 年度の男女共同参画推進室の取り組みとして、「女子学生と校長との懇談会 Part I と Part II」及び「旭川高専 OG と女子学生とのトークセッション」を開催しました。



「女子学生と校長との懇談会 Part I」は、本科 1 年生の女子学生を対象にしたもので、11 月 9 日（水）に 4 学科（M、E、S、C）の新入生 11 名が出席しました。今後の女子学生の更なる比率向上に向けて清水校長が提案した 6 つのテーマ『高専受験を決めるに際して参考になった情報源』、『入学後半年経過しての旭川高専のスクールライフの現状』に加え、『進路・将来の希望』、『女子学生が過ごしやすい環境づくり』、『女子学生を増やすための方策（女子学生目線での校長への提言）』などについて活発な情報交換が行われました。

中学校（中学生と教師）では高専の存在、その教育制度（5 年の就業期間）が十分に知られていない場合が多く、高専ガールを増やす取り組みの前段として高専の知名度アップの取り組みがより重要との意見が出ました。



本科 1 年女子学生と校長との懇談会の様子

「旭川高専 OG と女子学生とのトークセッション」は、12 月 16 日（金）、旭川市内・近郊の地元企業などで働く OG 7 名（専攻科修了者含む）を迎え、就職や進学を控えた本科 4 年生の女子学生全員（11 名）の参加で行われました。最初に OG から、女子目線でみた専攻科の魅力や地元企業を選んだ思いをプレゼンしていただきました。その後女子学生からの質問に答える形で、高専で学んだ専門知識と担当業務の関わりやアウトドアでの現場業務の体験談などを OG からリアルに語ってもらいました。女子学生にとって、この企画が近々に迫っている進路決定の参考になることを期待しています。



本科 5 年 & 専攻科 2 年女子学生と校長との懇談会の様子



同懇談会 Part II は、本科 5 年生と専攻科 2 年生の女子学生を対象として、平成 29 年 2 月 3 日（金）に 3 月の卒業・修了予定者 9 名が出席しました。清水校長がリクエストした 3 つの話題『5 年間 & 7 年間のスクールライフの感想～旭川高専に入学して良かったこと & 悪かったこと～』、『キャリア形成支援についての感想』および『旭川高専に対する要望』についてそれぞれの思いを語ってもらいました。

本科 3 年生までの期限付きでかわいい制服を着てみたかったとの意見、ホームルーム教室における夏季の暑さ対策と冬季の寒さ対策へのよりきめ細かな配慮の要望が出た一方で、高専入学によって高校や大学では得られない多くのメリット（本科生でも研究成果を学会発表できるなど）を実感していることが分かりました。



旭川高専 OG と女子学生とのトークセッション



来年度の「ニュージーランド・イースタン工科大学語学研修」および「旭川工業高等専門学校・水原ハイテク高等学校交流事業」について

本校では、教育の基本方針の一つとして「国際的に活躍できる人材の育成」を掲げ、様々な国際交流事業を進めています。その1つが、道内4高専とニュージーランド・ネーピア市のイースタン工科大学（EIT）との学術交流協定に基づく連携事業である「ニュージーランド・イースタン工科大学語学研修」です。来年度は本科3～5年生を対象に、夏期休業期間中の7月21日（金）～8月6日（日）の日程で実施を予定しています。

また、低学年向けには、「旭川工業高等専門学校・水原ハイテク高等学校交流事業」があります。これは、本校と韓国・水原ハイテク高等学校とが学術交流協定を締結したことにより始まったもので、学生の相互派遣を行っており、来年度は8月下旬に派遣プログラムの実施を予定しています。

これらの事業は、国際性を育む絶好の機会ですので、興味のある学生の皆さんは、是非積極的に参加してください。

「人力発電によるクリスマスツリー点灯体験」を実施しました

11月22日（火）、旭川市北部住民センターにて来館の子供達を対象に「人力発電によるクリスマスツリー点灯体験」を実施しました。

この体験は、クリスマスツリーに飾り付けられたLEDライトを自転車を漕いで点灯させるもので、設置初日には、集まっている子どもたちに発電の仕組みを解説しました。

会場に集まった子供達からは「ツリーに点灯する事が不思議」、「電気が点灯するのがかっこいい!」、「高専さんもすごいね」などの声が聞かれ、保護者の方より「今後は避難所での利活用ができるとすごく良い」など、たくさんの感想が聞かれました。

同センターは、市の指定避難所となっており、センターの職員の方からは「災害や震災時の発電装置」、「避難者の運動不足の解消」として活用できるのではないかと期待を寄せられていました。

この体験会の様子は、北海道新聞や旭川ケーブルテレビ等でも紹介されました。



平成28年度旭川工業高等専門学校地元就職ワークショップ」が開催されました。

1月17日（火）、本校において「平成28年度旭川工業高等専門学校地元就職ワークショップ」を開催しました。

本ワークショップは、「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」の一環として、地元企業への就職者を増加させる方法を学生自身が検討するとともに、その声を地元企業に届け、地元企業への就職率向上に繋げていくことを目的に、初めて実施したものです。

当日は本科4・5年生約30名が参加し、5班に分かれ、「地元企業のメリット・デメリット」、

「地元企業への就職者を増やすための対策案」などの議題について約3時間半にわたり討論し、その様子は北海道新聞等の各メディアに取り上げられました。

本ワークショップが、学生が地元への就職を検討する機会の一助となり、地元への就職率向上へ繋がることを期待されます。



本校学生が様々な研究発表会等で賞を受賞しました

○1月29日(日)に、フィール旭川5階のジュンク堂ギャラリーにおいて「旭川ウェルビーイング・コンソーシアム合同成果発表会」が開催されました。これは、旭川市内の6つの高等教育機関による大学連携組織「旭川ウェルビーイング・コンソーシアム(AWBC)」の主催で、連携校の学生がそれぞれの専門領域において社会デザイン能力を身に付け、地域社会に貢献できる人材となるため行った、この1年間の活動成果をポスターにまとめて発表・報告を行うもので、専攻科応用化学専攻2年の間藤 芳允さんが旭川市長賞を、専攻科生産システム工学専攻2年の金山 拓也さんが優秀賞をそれぞれ受賞し、旭川高専学生の発表は非常に完成度が高いものであったとの評価をいただきました。



○9月7日(水)~9日(金)に、千葉県幕張メッセ国際展示場において「The Royal Society of Chemistry-Tokyo International Conference 2016(英国王立化学会東京国際会議2016)」が開催され、専攻科応用化学専攻2年の間藤 芳允さんが自身の研究成果について英語によるフラッシュプレゼンテーション(短い口頭発表)とポスター発表を行い、「Best Poster Award」を受賞しました。



○11月14日(月)・15日(火)に、千歳科学技術大学において「17th Chitose International Forum on Photonics Science & Technology」が開催され、物質化学工学科5年の山田 千波さんが Poster Award を受賞しました。ほとんどの講演者が大学院生である中、山田さんの高いプレゼンテーション力と的確な質疑応答が評価されました。



みなさんの研究の更なる発展と今後の活躍を期待しています。

物質化学工学科5年の「挑戦状」が各メディアで取り上げられました



毎年、物質化学工学科5年生が同学科の全教員との親睦のため、ソフトボールの試合を行う際に儀式的に行われている恒例行事(?)の「挑戦状」と「応戦状」がSNS等で話題となり、テレビ朝日「羽鳥慎一モーニングショー」や北海道新聞等の各メディアで紹介されました。

「挑戦状」を仕上げた学生へのインタビューや津田副校長、宮越学科長、小寺学級担任が挑戦状・応戦状のやり取りを始めた経緯や、学生に与える効果等について語りました。



第1回廃炉創造ロボコンで特別賞を受賞しました

12月3日(土)、福島県の楡葉遠隔技術開発センターで「第1回廃炉創造ロボコン」が開催され、「U-Bo(ユーボ)」を作成した専攻科1年生の藤田大地さん、山本竜生さんが特別賞「株式会社IHI賞」を受賞しました。



この大会は、東京電力福島第一原発の廃炉に役立つロボットのアイデアと技術を競う大会で、福島第一原発の原子炉建屋内を想定した2つのフィールドから、好きなフィールドを選択し、あらかじめ設定されているフィールド内の環境をクリアすることを目指し、13高専15チームが参加しました。



行事予定

平成29年度
4月～6月



4月	1日(土)～4日(火)	春期休業
	5日(水)	入学式
	6日(木)	始業式・対面式(本科)、1年オリエンテーション(本科・専攻科)、TOEIC説明会(本科4年)、授業開始(専攻科)
	7日(金)	授業開始(本科)
	12日(水)	健康診断(本科・専攻科)
	13日(木)	第1回TOEIC IPテスト(本科・専攻科)
	13日(木)～14日(金)	新入生合宿研修(本科1年)
	20日(木)	学生総会(7時限目)(本科)、交通安全講習会(8時限目)(本科1～3年)
	23日(日)	開校記念日
	27日(木)	交通安全講習会(7時限目)(本科4年)
5月	2日(火)	授業参観日
	10日(水)	英検IBAテスト(本科1～3年)、TOEIC IPテスト(本科4・5年)
	18日(木)～19日(金)	校内体育大会(本科)
	20日(土)	専攻科推薦選抜試験
	25日(木)	いじめに関する講演会(7時限目)(本科1年)、インターネットトラブル防止講演会(7時限目)(本科3年)
6月	2日(金)～8日(木)	前期中間試験(本科)
	10日(土)	専攻科前期学力選抜試験
	15日(木)	薬物乱用防止講演会(7時限目)(本科5年)
	22日(木)	進路に関する講演会(7～8時限目)(本科4年・専攻科1年)
	22日(木)～23日(金)	宿泊研修(本科2年)
	29日(木)	思春期講演会(7時限目)(本科2年)

FANCT vol.127

「FANCT」…旭川高専を表す「ANCT」に「F」をつけて「Fun」（楽しい、愉快的）の音を付けました。旭川高専の楽しい情報を伝えること、また、読むのが楽しみな学校だよりになるよう名付けました。



独立行政法人国立高等専門学校機構

旭川工業高等専門学校

〒071-8142 北海道旭川市春光台2条2丁目1番6号

TEL 0166-55-8000 (代表)

FAX 0166-55-8082

<http://www.asahikawa-nct.ac.jp>

学校だよりに掲載されている記事・写真などは、学校だよりへの掲載目的以外の利用及び外部への提供は一切行いません。また、個人情報に関するお問い合わせは、上記担当までご連絡ください。掲載の記事・写真・イラストなどのコピー転写等の二次利用は固くお断りしております。

編集後記

皆さんは、今年度を振り返ってどんな年度だったでしょうか？ FANCT127号は、主に卒業・修了生や退職される教職員、後期の学校行事等に関する内容となっております。本誌が今年度を振り返るきっかけになっていたければ幸いです。

最後に、年度末のお忙しいところ、本誌にご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

記載：松井 秀徳（学校広報 WG）